

銀行

信用創造で、総資産が膨らむとは

貸借対照表

資産	負債
	純資産

左は、甲銀行の貸借対照表モデルです。

この銀行にA社から融資申し込みがあり1000万円の貸付を行いました。融資したお金は、甲銀行の普通預金に入金して引き出しを待ちます。

仕訳は

貸付金(資産)1000万円 / 普通預金(負債)1000万円
となります。

貸付金は融資先に対する権利ですから資産です。

普通預金が負債なのは通常の間感と異なります。

銀行にとって普通預金は預かったお金で、いつ引き出されるか分からない負債なのです。

貸借対照表

貸付金1000万円	普通預金1000万円
資産	負債
	純資産

その取引を含めて貸借対照表を作ると以下の通りになります。

総資産が膨らみました。

貸借対照表

貸付金1000万円	普通預金1000万円
資産	負債
	純資産

1000万円の資金を得たA社はそのお金をB社への支払いに充てます。B社の甲銀行の普通預金口座に入金されました。

すると甲銀行にとっては、普通預金の名義人が変わっただけで、貸借対照表のボリュームは変わりません。

普通、法人も個人も大金は引き出さず、銀行に預けたままにするので、このようになります。

乙銀行に送金された場合は少し異なりますが、乙銀行から甲銀行へ送金されることもあります。

貸借対照表

貸付金1000万円	普通預金1000万円
貸付金1000万円	普通預金1000万円
貸付金1000万円	普通預金1000万円
資産	負債
	純資産

普通預金がいくらあっても、全部が引き出される訳ではないので、銀行は預金全額を現金で用意しておく必要はありません。

つまり、もっと貸付をして、普通預金を増やしても支払資金不足になることはありません。

ですから、自己資金に捕らわれずどんどん融資できるのです。このような信用創造によって、金融機関の資産総額は左図のように膨れ上がるのです。

※財務諸表分析を理解する為の説明の為、大まかな数字の流れの説明にしています。